

## 令和元年度第1回青少年指導関係運営協議会 会議録

日 時 令和元年6月20日(木)  
午後3時から午後4時30分  
場 所 市民総合福祉会館第1談話室

出席委員 吉田一雄委員、花園隆委員、薄葉良委員、中村和博委員、中村伸一委員、  
平田辰雄委員、飯箸悠介委員、清水寛委員、鈴木義信委員、齋藤和利委員、  
長谷川宏美委員、櫻井隆雄委員、鈴木清委員

### 1 開会

### 2 委員自己紹介

### 3 まなび支援センター所長挨拶

### 4 協議

- ① 令和元年度まなび支援センター青少年指導関係活動の方針について
- ② 報告・意見交換
- ③ その他

#### 【事務局から説明】

本協議会の委員の皆様におかれましては、今年度、委嘱2年目となりますが、異動等によりまして、新しく委員になられた方が3名いらっしゃいます。任期は木更津市まなび支援センターの設置及び管理に関する条例第5条第3項により、前任者の残任期間として、令和2年5月31日までとなっております。よろしく願いいたします。本協議会は、木更津市審議会等の会議の公開に関する条例により公開されておりますが、本日の傍聴人はいません。また、会議録は木更津市のホームページ上で公開されることとなります。会議中は録音機により会議を録音いたしますのでご承知ください。

それでは只今から、令和元年度第1回木更津市青少年指導関係運営協議会を開催いたします。会議開催にあたり委員14名のうち、13名の出席により会議が成立いたしますことをご報告いたします。

それでは、協議に入ります前に、まなび支援センター所長の岡崎よりご挨拶申し上げます。

岡崎所長あいさつ

### 〈事務局〉

それでは、これより協議に入りたいと思います。吉田会長に座長をお任せいたします。よろしく願いいたします。

### 〈吉田会長〉

ご協力の程よろしく願いいたします。それでは、協議にはいります。協議事項の①令和元年度木更津市まなび支援センター青少年指導関係活動の方針について、事務局説明願います。

### 〈事務局〉

令和元年度まなび支援センター青少年指導関係活動方針

### 〈吉田会長〉

只今の事務局からの説明についてご質問ご意見があれば伺いたいと思いますが、如何でしょうか。パトロールをしても子ども達の姿はみえないということですが、丁寧にまわっていただいているので頭がさかります。青少年・子育て相談についてですが、来所されたり、電話やメールで相談をされる方というのは、かなり深刻な相談になるのでしょうか。

### 〈岡崎所長〉

相談者の相談内容は漏らさないということで実施しておりますので、場合にもよりますが、内容が深刻なものであれば、医療機関や関係機関等、繋がりのあるところをご紹介させていただいております。

### 〈吉田会長〉

ご本人からの相談があればいいのですが、街頭にもいないし連絡もしてこない子ども達が心配ですね。

### 〈平田委員〉

家の中に閉じこもってゲームをしたりということで、引きこもりになって、出てきたら他人を傷つけてしまったりですとか今事件になっていますよね。ゲーム業者が何か対策をたてるとか、ゲームを止めさせることはできないのでしょうか。もともとゲームがなければそういうことにはならなかったのではと思うと非常に悲しいです。

### 〈岡崎所長〉

引きこもっているのは青少年ばかりではなく大人でもあるという現状がありますが、教育委員会では、各小中学校においてネットマナーの研修等を子ども達向けにさせていただいております。また、警察からもご指導いただいているところです。小さい時からの家庭での約束事やルールづくりが大切であると考えて取り組んでいるところです。

### 〈事務局〉

ゲームをなかなか止めないというお話がありましたが、木更津市青少年補導員連絡協議会では、研修会において、ゲーム依存を専門にされている神奈川県独立行政法人国立病院機構久里浜医療センターの北湯口先生からご講演をいただきました。ゲーム自体連続性がありますので、ゲームの途中で止めるようにといわれてもそれは無理で、なかなか止め

られない。また、ゲーム仲間もいたりしますので、ゲーム依存から脱却することは非常に難しい。しかしながら、ゲーム以外に何か別の興味のあるものをみつけだしたりすることができれば、脱却することはできるということでした。ゲーム依存については、WHO（世界保健機構）で正式に病気に認定されましたので、これからゲーム依存症の治療が広まっていくのではないかと考えています。

#### **〈齋藤委員〉**

ゲームは、仲間うちで何時にゲームをしようということになるので、そこに入らないと何で参加しなかったというように仲間外れになってしまう。あの人は約束を守らないとネットのなかのゲーム仲間同士で言い争いやケンカになり、そのなかに居づらくなってしまふ。どうしてもゲームをやらざるを得ない状況になってしまうということです。そういった意味では難しい状況があります。

#### **〈事務局〉**

依存症ということですので、例えば、アルコール依存症ですとか薬物依存症等と同様、ゲーム依存症という病気に対する治療ということになりますので、なかなか難しいかとは思いますが、早い段階から家庭のなかでルールを決めるなどして取り組んでいかなければいけないと感じています。

#### **〈平田委員〉**

ゲーム自体メリットがあるのかどうかわかりませんが、ゲーム業者に、例えば、戦争ゲームのようなものはつくるのを止めましょうですかといえないものでしょうか。子ども達は皆戦争を知らない世代ですので、そちらに発展しないようにと危惧しています。

#### **〈齋藤委員〉**

今、ネットゲームがスポーツということで、なかなか理解できませんが、eスポーツとってコンピュータゲームをスポーツや競技として捉え、賞金の懸かった世界規模の大会も開催されるなどして、それだけで生活している人達もいるということです。先程の子ども達が集まってゲームをする時間ですが、夜中の10時頃から、明け方ぐらいまでゲームをする。そうすると、子ども達は学校に行かなくなってしまつて不登校になるということで、全国で不登校傾向にある中学生が33万人いるそうです。不登校の生徒11万人と合わせると44万人ということで、10人に1人が不登校という状況で、そのなかの何割かは学校に行きたくない、仲間外れだからというのはあるかもしれませんが、何割かの子ども達はネット依存で朝起きられずに学校に行けないという子ども達かと思ひます。過日、そういった子ども達が学年に関係なくフリーで勉強できる場所をつくつたらとNHKで放送していましたが、各学校にそういったフリールームがあればまた一つ違ふのかなと思ひています。友達の一言で学校に行きたくなくなつて、教室に入れないうもいるだろうし、先生に怒られ、それ以来その教室に入りたくないといううもいると思ひます。色々なケースがあると思ひます。

### 〈櫻井委員〉

スマートホンの問題ですが、やはり、初期の対応が大切だと思います。例えば、部屋の電気が消えていても布団をかぶってしまえばスマートホンの画面をみることができますので、寝室に持ち込ませないルールや、自分の部屋に持ち込んだとしても寝る時にはここに置くというようなルール決めが非常に大切だと思います。小中学校のルールでは、家庭ではリビング等皆のいる場所で使いましょうというものがあります。1時間から2時間、決められた場所で、ルールを守って使いましょうというご家庭が一番多いようです。また、いかがわしいサイトに行かせないよう、フィルタリングで制限を設けることができますので、子どもだけではなく親もきちんと対応しないといけないと思っています。

### 〈吉田会長〉

子どもの教育ばかりではなく、親の対応も大事になりますね。

### 〈櫻井委員〉

研究集会の講演のなかでも、親の対応が大事というお話をいただいたことがあります。

### 〈齋藤委員〉

何でもみえてしまうし、その世界へ行くことができる。これからの子ども達はもっともっとスマートホンを使っていかなければいけないし、もっと身近なものになっていかなければいけないと思っています。その一方で、その使い方を間違えると大変なことになってしまう。それは我々が経験してきていないことですので、どういったルールをつくらたいのか、細かい所を教えることができないのが難しいところです。

### 〈吉田会長〉

大学でクラスにスマートホンを持ち込む学生は随分いるわけですが、メールかゲームくらいしかしていないようで、コンピュータの大きい画面があるクラスで授業をしてもスマートホンに頼っているところをみると、純粋にパソコンやインターネット環境自体に適応しているのではなく、1個の機械に対して適応しているだけとしか思えないですね。それでいて、何か調べものができるかという、そうでもない。実感としてはその程度のもので、持たしておかなくてもいいのではと思っています。皆それが日常になってしまうと離れられないというのはよくわかりますし、なかなか悩ましい問題がありますね。

### 〈齋藤委員〉

ただ時間つぶしにゲームをしているだけではなく、もう少ししっかりと使って欲しいなと思う部分もあります。スマートホンはゲーム機ではないと思いますので、使い方次第ですね。

### 〈花園委員〉

学校現場では、SNSのトラブルが多くあります。ネット上では言葉が荒れる傾向がありますが、言葉が荒れるともっと荒れます。いわゆる炎上ですが、子ども達は顔がみえないからか平気なんですね。子ども達には、人に対してこういう言葉を使ったら相手に嫌な思いをさせるというように、根本的な、教育の原点のところからきちんと教えこまないと

いけない、根本的に指導していかないといけないと感じています。

#### 〈櫻井委員〉

木更津市内の小中学校では、学校に携帯電話を持って行ってはいけないので、持って行く子は基本的にはいませんが、やはり、子ども達は家に帰るとLINEやインスタグラムに夢中になっています。そうしたなかで、今の子ども達は言葉遣いがまるで違ひまして、関西人でもないのに、うち、といたり、ネットスラングを使っていたりして、女の子が男の子みたいなしゃべり方になっていたりする。また、いつも一緒にいる子がLINE上でケンカしたりしているので、少し考えられない部分があります。家庭でもその辺を教えていかないといけないと思っています。

#### 〈花園委員〉

ボーダーレス化していますよね。例えば、こういう場にいたらこういう言葉遣いというものが大人のなかではありますが、そういうところが子どものなかでは本当になくて、その辺から根本的に勉強していかないとなかなかできないと思います。

#### 〈櫻井委員〉

やはり、家庭での対応が大事だと思います。

#### 〈吉田会長〉

まだまだ子どもですから誰かが指摘してあげないと気付かないですよ。

他の項目では何かございませんでしょうか。それでは、②番にいかさせていただきます。それぞれの委員の皆さんから、今のお立場上で何かあればご報告いただくということにしたいと思います。

#### 〈櫻井委員〉

4月の23日に岩根小学校の児童二人が交通事故に巻き込まれてしまうという、大変悲しい出来事がありました。主要地方道袖ヶ浦中島木更津線の校区の6小中学校のPTA会長、校長先生、3区の区長会長から木更津市長へ要望書を提出させていただきました。

#### 〈花園委員〉

給食が全県定時制全面的に廃止になりましたので、夕飯を何時に食べているのか1回調査したことがあります。すると、やはり、家に帰ってから食べているんですね。今まででしたら、仕事をしてお腹が空いているから給食を食べて、勉強して、帰って寝て、また仕事ということでしたが、今は、生活時間帯が多分ずれていて、夕方の時間食べなくても、パン1個でも食べておけばとりあえず9時ぐらいまでお腹が持つということで、家に帰ってからご飯を食べる。9時ぐらいまで授業がありますが、そういった時間帯に外に出て何かご迷惑をおかけしなければいいかと危惧しています。言葉、食べ物、生活リズムをしっかりと生活改善していかなければいけないと感じています。

#### 〈薄葉委員〉

自転車の乗り方で加害者にもなるということで、本校では自転車で通学する生徒に関しては必ず賠償保険に入るということを条件にしています。自転車での事故や乗り方のマナ

一のこと外部の方からご指摘を受けることもありますので、これを含めた校外でのマナー、モラルの向上が今まで以上に必要ではないかと感じる事が非常に多くあります。

#### 〈吉田会長〉

夜道を歩いている際など、自転車も電気を点けて走行してもらえればいいですが、無点灯で走行されたりすると、危険を感じる場合があります。こういったところも一つ課題になると思います。

#### 〈中村(和)委員〉

去年1年間で虐待の相談を受けた件数は、前年比5%増となっています。市民の方の意識も高まっているようで、ちょっとしたことでも、虐待と思ったら児童相談所全国共通ダイヤル189イチャヤクに掛けてくださる。夫婦間のトラブルを子どもにみせてしまうという案件が増えていますが、家庭のなかで相談できる人、例えば、祖父母や親類縁者、町内会の方とか、もっと若い親御さんが相談できる人が増えていくといいなと思っています。

#### 〈中村(伸)委員〉

木更津市の児童虐待の件数は5年間で3割くらい上がっている状況でございます。大きな事件につながるようなものは、今年度に入ってからはないと聞いております。虐待につながるケースでは、家庭環境の要因が多く、市といたしましては、子どもの貧困対策ということで、民間の団体と今後色々なかたちで注力していかなくてはいけないと感じているところです。なかなか勉強に集中できるような状況ではないお子さん達を集めて、学生ボランティアの方に来ていただいて、色々なかたちで学習の支援をしてもらおう子どもの学習支援や、月1回なり週何回かというかたちで各地区で実施されている子ども食堂など、子どもを見守る体制が必要だという認識のなかで、ボランティアの方々の活動をサポートするというかたちで、市民の皆様とともに進めていかなくてはならないと感じているところです。虐待につながらない相談では、ネウボラでの相談件数がかなり多くなってきておまして、お子さんの言葉の問題だったり、発達障害の問題だったり、そういったことを含んだ相談件数が増えている状況です。先ほどの交通事故の関係につきましては、危ない箇所を洗い出し、改修が必要なものについては都市整備部で再度チェックをして、PTAの方々と一緒に、どういったかたちが一番いいのかということで取り組みを一緒に進めていかなくてはいけないと思っております。今、子ども達を取り巻く環境のなかで、子ども達の見守りについては、保育園や幼稚園等の単体ではなく、教育委員会や色々な団体と色々なかたちで、考えていかなければなりません。今後も引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

#### 〈吉田会長〉

子どもの学習支援でお世話になっておりますが、子ども達はずっと勉強しているわけではなく、おやつを食べたり、大学生と遊んだりもして、メリハリのあるなかで過ごしています。子ども達はというと、居心地がよく、また、やった気にもなるということですので、もっと広げていったいいのではないかと思います。

### 〈齋藤委員〉

不登校対策ですとか居場所づくりに広がりがあると思います。

### 〈平田委員〉

真舟の県道の歩道は自転車も走行可能という標識がありますから自転車は通れますが、朝の通学時は通勤時間帯ということもあり、車両等が路地からも出てくるので、出会い頭の衝突事故になってしまうことがあります。下りの歩道を走る時にはどうしてもスピードが出てしまい、また、塀などが高く見えにくいということもあるので、自己防衛を考えながら、お互いが気を付けて事故が起こらないようにしたいものです。

### 〈吉田会長〉

すごい台数の自転車が通っていると聞いています。

### 〈飯箸委員〉

最近の少年達の非行と補導の関係については、件数的には減少を続けておりまして、木更津署管内も同様です。今まで補導というと、深夜徘徊と喫煙で7割程度を占め、その次に怠学や飲酒となっていたわけですが、今頃の季節になってくると夜も暖かいので、以前であれば外で集まって談笑していたはずが、外に集まる必要がなくなったんだと思います。深夜徘徊もずいぶん減り、子ども達を夜みかけなくなりました。携帯電話、スマートホンの登場が非常に大きいと思います。連絡も別に会って話さなくてよくなり、ゲーム機にあっても、今、ネットゲームが主流ですので、家に居ながら友達と一緒にゲームができる。話しながら一緒に戦えるので、集まってする必要がなくなり、家を出る必要がなくなってしまった。ネットに関していえば、警察に来る相談も増えております。中高生くらいのマナーに端を発するケンカやいじめ、それが不登校につながるものもありますし、さらに発展していくと犯罪の被害者になったり、もしくは知らないうちに被疑者、犯人になったりということはよくあります。例えば、家出ですとか行方不明を扱った場合でも、ネットに端を発して知り合った人と何処かへ行ってましたというのはよくある話です。今、中高生でよくあるのが自撮り画像の送受信です。ただ写真を送っているだけならいいですが、やはり、成長期で性的なものに興味を持ち始めた子ども達が、ネットという潜在域のなか、表に顔がみえないので安心してというか、危機意識が薄いというか、自分の胸くらいならいいとか、顔を見せなければいいかというかたちで、自分達が個人情報や色々なところにさらけ出しているのに気付いていない。皆がSNSをしているなかで、学校名や部活を知られてしまっている、場合によっては家まで特定されているというのはよくある話です。ある特定の場所で秘密でしているつもりでしたとこたえ、危機意識が非常に薄い。これは子ども達が悪いというよりは保護者が悪いと思っています。学校ではネット教室に警察を呼んで色々教えていただいたりしていますが、スマートホンをしているのは家庭内です。みえないところでしている。ゲーム機もそうですが、初めにルールをつくるのは非常に大切です。YouTubeをみせるにしても、ゲームをさせるにしても、最初からルールをつくって、みせる、させるというのが非常に大事ななと思います。ルールの作り方自

分達にルールをつくらせる。子ども達が、ゲームをしたい、このゲーム機が欲しい、皆がしている、これができないと仲間外れにされるといつてきた時に、それでは何かルールを決めないといけないというかたちで子ども達自身にルールを決めさせるのが非常にいいといわれています。自分で決めたルールであれば比較的守ることができるということです。親御さん達には、お子様が物心つく前に、ネットの取り扱い等について勉強する機会がなくてはいけないと思っています。虐待の関係については、児童相談所や要保護児童対策地域協議会等と情報共有しながら、必要な措置を図ってまいりたいと考えております。死亡事故の関係については、交通課で市役所と協議検討しているところです。

#### 〈清水委員〉

裁判所では、どうしても事件というかたちで関わるので起こってからという関わりになりますが、再非行率、再非行者率が深刻になってきています。同じ子が何度も非行を繰り返す原因は何だろうと考えた時に、社会に居場所がない子が一定数いて、少年の更生を考えていくうえで、どういったことで社会につなげて、色々なサポートを得ながら更生していくことができるかということを考えますが、つながる先がみつからないと立ち直りの為の取り組みもかなり難しくなってきますので、関係機関と連携しながらやっていかなければいけないと思っています。ネットのことに関していえば、SNSが非行に色々なかたちで関わってくるということが一定数あって、SNSが関わってくるとどうしても被害が大きくなります。こんなに大事になるとは思っていなかったということをよく聞きますが、やはり、ネットの使用方法に関しての知識が不足しているという面や、全世界につながっているということの意識がすごく希薄で、それは親御さんも一緒です。SNSやネットのことがよくわからない。よくわからないから何もしないままになってしまっている。そうすると、子ども達は便利なところだけつまみ食いをして、好き勝手に使ってしまうので、そういったところで思わぬ犯罪につながってしまう面もあると思います。

#### 〈鈴木委員〉

夜7時から8時まで、高校生の帰宅時間が中心になりますが、月2回定期補導で木更津駅と袖ヶ浦駅周辺を巡回しています。あと、木更津警察署の協力を得てソフトバレー大会を各中学校区で実施しておりまして、今年は17回目を迎えまして、6月15日に根形中で実施しました。根形中の生徒、PTA、警察関係者、少年警察ボランティアの会員等総勢150名程の参加があり、終わった後には焼きそば等をつくって皆で食べました。そのなかで感じることは、警察署が今こういった活動をしているということ、皆さんが生徒の為に一生懸命やっているということが生徒達に伝わっている。純粋に楽しんでいるなかであっても成果は非常にあると感じています。先程の子育て、保護者の問題ですが、子どもと面と向かって話をすることによってお互いの信頼関係や親との絆ができると思うのですが、親も忙しいからと、コンビニで買ったお弁当を子どもに与えて仕事に行ってしまったりして、子どもと話をせず、関係が希薄になっていて、そういったことへの反発みたいなものが子ども達から出てきているのかなと思っています。子どもと向き合って話をする時

間が、例えば1日5分でも10分でもあればと思っています。交通事故の件ですが、痛ましい事故が起きてしまったことは非常に悲しいことだと思います。

#### 〈長谷川委員〉

最近の子ども達の会話を聞いていると言葉が足りないというのがあります。これこれこうだからこうなったというのが本来はあるわけですが、結果だけの話をしていたり、内容がざっくばらんすぎて、何をいいたいのかが伝わらない。どう楽しいのか、なぜそんな気持ちになったのか、順序だてて話ができるようにならないといけないと思っています。

#### 〈鈴木委員〉

毎年体験学習を通して仲間づくりということでキャンプをしています。今までは、木更津市のすべての子どもを対象に案内を出して、抽選のうえ2日間で150人程度を受け入れていましたが、今回、育成者の高齢化等もありまして、子ども会だけに限定したところ、2日間で50名の参加がありました。そうしたなか、今年は子ども会のキャンプはないですかという問い合わせが2、3件ありまして、子ども会に加入していなくても、そういった情報を待っている方が大勢いらっしゃるかと思い、今年アンケートをとりました。アンケート対象が少ないので参考にならないかと思いますが、青少年関係4団体で何かできないかという話も出ています。学習支援については、三中学区はモデル地区として一昨年から実施してまして、今年3月、5人が高校受験をして全員合格しました。子ども達も大学生に感謝の言葉を伝えたり、今年3年目ということで、大学生が時間をうまくコントロールしたプログラムをつくってくれたりして、試行錯誤しながらではありますが、いい状態で実施しているところです。

#### 〈齊藤委員〉

子ども達はほとんど外に出ないで、家の中でゲームをしている。ゲーム依存症にならないか心配です。補導員ではSNS等、インターネット上の問題について常に勉強をしています。いったんインターネット上に流してしまったものはもう二度と消すことはできないデジタルタトゥー等、子ども達に子ども達の目線で、愛の一声を掲げて、常に伝えていかなければいけないと思っております。

#### 〈吉田会長〉

時間が参りました。また次回もございますので、本日は以上で協議を終了いたします。

#### 〈事務局〉

貴重なご意見ありがとうございました。次回第2回の運営協議会は10月10日、第3回は令和2年2月20日に開催を予定しております。委員の皆様におかれましては、今後とも青少年健全育成のため、それぞれのお立場でご尽力いただきますとともに、当センターの運営にご指導ご鞭撻いただきますようお願い申し上げます、本日の会を閉会させていただきます。ご協力ありがとうございました。